

新冠中学校1年生が 日高自動車道の建設現場を見学



6月27日、新冠中学校1年生が、日高自動車道の建設現場を見学しました。今回の見学は、大節婦川橋の橋梁工事を受注する日本高圧コンクリート株式会社の協力により実施されたものです。

当日は、同社の担当者が見学を案内し、スライドや模型を使って橋の構造や施工の工程について説明しました。

生徒たちはその話を聞き、基礎知識を身につけたあと、厚賀インターチェンジから建設中の日高自動車道へと向かいました。新冠トンネルを通過し大節婦川橋に到着すると、空洞になっている橋桁の内部に入り、実際の構造を間近に見ながら理解を深めました。



消防山岳救難隊が 山岳訓練中に偶然の救助



日高中部消防組合山岳救難隊の皆さん

7月23日、日高中部消防組合の山岳救難隊が、幌尻岳で負傷した登山者の救助活動を行いました。

山岳救難隊は、新冠・静内・三石の各消防署から選抜された隊員で構成され、今年4月に発足しました。この日は月に1度の山岳訓練日で、訓練中に救助要請をした直後の負傷

登山者と偶然出会い、ただちに救助にあたりました。対応した隊員は「突然のことでは驚いたが、今回の経験を活かして話したい」と話していました。

新冠小学校でふるさと給食 地元の味に児童も笑顔



7月9日「ふるさと給食」が新冠小学校で提供されました。町内の小中学校では、新冠町産の食材や加工品を使ったこの取り組みを年2回実施しています。

この日の献立は、みもと製菓の「バターロール」、字古岸のみいやん農園のピーマンをはじめとする新冠産の野菜や豚肉を使った「ピーマンの肉詰め」「キャベツと白菜のサラダ」「白菜の豆乳スープ」、鈴の鳴る道の「ホロシリコーヒ―牛乳」の5品でした。児童たちは「いつも給食はおいしいけれど、今日は特においしい」と笑顔を見せ、大好評でした。どの料理も人気があり、児童によって「いちばんおいしかったメニュー」が分かれたのも印象的でした。



札幌トヨタ自動車株式会社が

企業版ふるさと納税で500万円を寄附



6月30日、札幌市中央区の札幌トヨタ自動車（相茶省三代取締役社長）より、バリアフリー関連事業を網羅する「思いやりと笑顔あふれるまちづくり事業」に対し、500万円の寄附をいただきました。

相茶社長は、「当社とひだかトヨタ自動車販売合同会社は、今後、新冠町との連携をさらに深め、総力を挙げてお役に立ちたい」と話されました。

水に親しむ一歩から

小学1年生の水泳教室



7月3日から、全5回の日程で小学1年生を対象とした水泳教室を町民プールで開催しました。

教室には22名の児童が参加し、はじめは水中に潜ったり、水中じゃんけんをするなど、水に親しむ活動から始まり、その後、一人ひとりのレベルに応じてビート板を使った練習などを行い、楽しみながら泳ぐ力を身につけていきました。

まちの話 題 あれこれ

ふるさと納税を活用し

協賛レースを開催



7月24日、門別競馬場で行われたホッカイドウ競馬において、「新冠町ふるさと納税特別」と名付けた協賛レースが実施されました。

このレースは、ふるさと納税を財源に、新冠町の魅力を全国の競馬ファンに発信することを目的として、町がふるさと納税を開始した翌年の平成27年から継続して行われているものです。

レース後には山本町長が表彰式のプレゼンターを務めたほか、今年は町職員も競馬場に足を運び、会場を盛り上げました。

防火の思いを込めて

婦人防火クラブが廃油石けんを製作



7月5日、新冠市街地婦人防火クラブの会員が新冠消防署で廃油石けんを製作しました。

この活動は30年以上続く取り組みで、防火メッセ―ジを添えた石けんを地域に配布し続けています。

作業は廃油と薬品を混ぜ合わせる重労働でしたが、参加した7名の会員は談笑しながら交代で作業し、手際よく製作を進めました。

暑さをしのぐための施設を拡充

町内3郵便局も利用可能に



7月15日、町は町内の3郵便局（東町・節婦町・新和）と連携し、それぞれを「暑熱避難施設（クーリングシェルター）」に指定しました。

これにより、町内の暑熱避難施設はレ・コード館を含めて4施設となります。新冠郵便局の小野雄希局長は、「郵便局が安心して過ごせる場所になるのはうれしい。暑いと感じたら気軽に利用してほしい」と話していました。